

2024年7月30日作成

Ver.1.04

傍鞍部腫瘍に対する手術アプローチによる治療成績の評価からロボット手術導入の可能性を検討する

1、研究の目的と意義

本研究では、傍鞍部腫瘍に対して行われている顕微鏡・2D内視鏡・3D内視鏡を利用した手術成績を比較し、それぞれの利点欠点を明らかにすることで、3D内視鏡において、肉眼では確認することができない微小な操作を行う上でさらなる精度の向上のために必要な改善点を明らかにすることを目的とします。

脳という臓器は周囲に血管や神経など重要な構造物を豊富にもち、病変の近傍にも近接して存在しており、正確な操作を行うことは手術を安全に提供することにつながります。ロボット手術では人では制御できない手術器具の手振れを補正しながら手術を行うことができるため、より正確な操作を行うことが可能となります。ロボット手術では3D内視鏡を使用して行うため、3D内視鏡の問題点の解決することで、ロボット手術の導入の可能性へとつながります。また、最終的にはロボット手術が導入されることでより安全で的確な医療を患者に提供することが可能となるのではないかと考えます。

2、対象となる患者さん

2015年1月1日から2025年3月31日の期間に、長崎大学脳神経外科に入院した成人脳腫瘍患者のうち、傍鞍部腫瘍（下垂体腺腫、頭蓋咽頭腫、ラトケ嚢胞、髄膜腫）に対する外科的な介入を行った症例を対象とします。

3、研究の方法

顕微鏡手術、内視鏡手術にわけ、術前・術後の画像所見より摘出率、手術に伴う合併症、再発有無を評価します。また3D内視鏡の2D内視鏡に対する優位性を調べるために、内視鏡を使用した症例については手術に関与した術者・助手・学生に対して手術後に解剖構造の理解度、視認性、手術操作に関してアンケート調査を行います。これらの情報をもとに、顕微鏡手術と内視鏡手術の治療成績を比較検討しそれぞれの問題点や優位性を明らかにします。さらに術者などから得られる操作性や視認性を客観的に評価する事で3D内視鏡の有用性や問題点を検証し、傍鞍部腫瘍の手術におけるロボット支援手術の可能性に関して検討します。

4、研究に用いる情報

性別や年齢、合併症、既往歴、現病歴と言った背景の情報、視野欠損、視力低下、易疲労感、頻尿、月経不順、乳汁分泌といった自覚症状の情報、採血によるホルモン値、原疾患に係る治療薬（ドパミン作動薬、ソマトスタチン誘導体、ピグビソマント、抗甲状腺薬、副腎皮質ステロイド剤、抗利尿ホルモン薬）の内服の有無の情報、術後経過に関する情報を収集し、これらの結果を顕微鏡手術、内視鏡手術で分類し、比較していきます。

また、内視鏡手術に関しては、手術に関与した助手・学生に対して解剖構造の理解度、視認性、術者に対しては解剖構造の理解度、視認性、手術操作性に関してアンケート調査を行います。その結果を2D内視鏡と3D内視鏡に分類し、両者の結果を比較します。

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

5、研究期間

研究機関長の許可日～2027年3月31日

6、外部への試料・情報の提供

該当なし

7、研究実施体制

この研究は長崎大学病院のみで実施する研究です。

《研究責任者》

長崎大学病院 脳神経外科 松尾孝之

8.お問い合わせ先

長崎大学病院 脳神経外科 松尾孝之

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話：095（819）7475 FAX 095（819）7378

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616

受付時間：月～金 9：00～17：00（祝・祭日を除く）